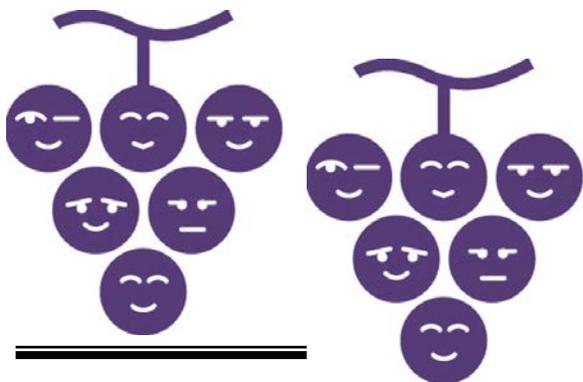


組合活動啓発のため、組合員以外の皆様にもお届けしています。



マスカット

2012年度 第7号 (2013.04.08 発行)

I. 退職・転職教員からのメッセージ

今年度退職・転職される組合員の先生方に、教育学部職員組合活動の思い出、及び教職員へのメッセージを語っていただきました。主な部分を抜粋してお届けします。

高橋香代先生

〈一番の思い出は何ですか。〉

「昭和 59 年に教育学部着任し、その翌年の昭和 60 年に組合執行委員になりました。その時、組合では日生方面に日帰り旅行を企画しました。私は幹事で、お金を預かっていたため、緊張して夜も寝られずうとうとして、翌朝、8 時半にバス出発のところを、目を覚ましたら 8 時過ぎでした。顔も洗わず、服を着て、靴下は手に持ったまま、急いで車で大学に駆け付けました。お金を持った私が来ないので、先生方はかなりあわてていたようです。大失敗でした。当時は 50 人くらいの教員がこうした旅行に参加していたように思います。この時も、魚釣りをしたり、みかん狩りをしたり、魚料理を楽しみました。大学の教職員は異動も多いし、ばらばらになりやすいので、組合は仲間づくりとして大切な場所だと思います。みんなに、特に若い人たちに、入ってもらいたい。」

〈私たちへのアドバイスをお願いいたします。〉

「岡山大学教育学部が今後生き残れるかどうか、ここが一番の問題。教育学部が今のサイズのままで今後もありつづけることはないだろう。設置審の人数枠に守られるのも時間の問題。実際に他大学では守られなくなっている。教員採用人数も今はよいが、少子化がさらに進み、じきにまた減少する。今は教職大学院の設置と教師教育開発センターの設置によってなんとか生き延びているが、10 年先のことを考えると何か次の手を考えていかなければならないと思う。現職研修、教職大学院の拡充や、地域の学校・教育委員会との連携・協働等いろいろあるだろうが、岡大教育学部では〇〇のことにとりくみ、〇〇の分野に〇〇の貢献をしており、こうしたことを続けていくためには〇〇の教職員数が必要である、ということを含め、文科省、財務省に示していかなければならない。普段の研究ではそれぞれの教員が自由に好きなことをしていても、根本のところ、つまり、どのように社会に貢献し組織として生き残るかについては協力できるようになってもらいたい。組合もそうしたところで知恵をだして貢献してほしい。」

※裏面に続く→

研究科長交渉における要求事項の募集

教育学部職員組合では、毎年、教育学研究科長と様々な事項に関する交渉を行っております。今年度も例年と同様に研究科長交渉を予定しており、交渉で取り上げるテーマについて、皆様のご意見をうかがいたいと存じます。つきましては、本項の裏面にご意見をご記入いただき、4/30 (火) までに、懇話室の梶谷委員長又は大竹書記長の BOX までご投函ください。よりよい職場環境実現のため、幅広いご意見をお出しくださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

関根正美先生

〈一番の思い出は何ですか。〉

「2回目の執行委員のときだったのですが、ちょうど、2001年だったでしょうか。委員長が北神先生、私が書記長のときでした。当時の執行委員会では、職員組合のTシャツ、鉢巻、旗をつくりました。デザインは美術教育講座の橋ヶ谷先生にお願いをしました。そのときの学部長が田中宏二先生で、学部側に負けないようにと意気込んで、そうしたグッズを持ち込んで学部長交渉に臨みました。橋ヶ谷先生には、デザインで協力していただいたことに対する感謝状を贈りました。交渉の争点ですが、当時、毎朝出勤時に出勤簿に押印しなければならなかった時で、特に勝ち取りたかったことは、それをなくさせることでした。結果は、あえなく拒否され、完敗でした。苦い思い出です。それでも、組合活動を楽しみながらできたことは本当によかったです。」

〈私たちへのアドバイスをお願いいたします。〉

「組合は健康と似ているんですね。なくなると困るんです。それがあるときにはありがたみがわからない。ですから、続けていくことが大切なんです。私自身も恩恵を受けています。新任のときは、知り合いがない。組合に入って、同僚と知り合いになり、友人ができた。みなさんが思っている以上に、組合があるというのは意味のあることなんです。執行委員の人たちには無力感を持ってほしくありません。執行委員の人たちがやりたいことをぜひやってほしいと思います。そういう意味で、今年の執行委員会は、懇話室にウォーターボトルを設置しました。あれは斬新的な取り組みです。5月になればきっと多くの人が利用するようになるでしょう。今回の平日一泊旅行、久々の大技ですね。ああいう行事に多くの組合員が参加するようになってほしいですね。」

II. 教職員組合温泉ツアー参加記

2013年2月28日(木)から3月1日(金)にかけて、教育学部職員組合主催の温泉ツアーに参加いたしました。今回向かったのは美作三湯の一つ、湯郷温泉(湯郷グランドホテル)。初日、岡山駅に移動した我々は、そこから送迎バスに乗り込み、1時間ちょっとで目的地に到着しました。当日まで秘匿されていた現地での「お楽しみ活動」初日は、スポーツ活動に力を入れる今年度の組合らしく、なでしこリーグに所属する岡山湯郷 Belle の練習見学でした。間近で見させてもらい、たとえ練習とはいえ、日本代表選手の動きが他の選手と比べて圧倒的に違っており、瞬時にそれとわかるほどの存在感を発していたことが印象的でした。投宿先では蟹と美作牛に彩られた夕食、さらには自慢の温泉(と何故か室内にあった頭脳パズル)も手伝って、参加者同士の親睦が更に深まる、大変楽しい一時となりました。一夜明け、二日酔いの苦しみに見舞われなかった我々が参加した二日目の「お楽しみ活動」は、投宿先の近くにある現代玩具博物館・オルゴール夢館訪問でした。そこでは「ミカド」に代表される110年ほど前のオルゴールの音色に耳を傾け、館内スタッフによる海外の児童向け玩具実演では予期せぬ展開に驚嘆するなど、初日とは対照的に知的刺激に満ちておりました。その後、送迎バスにて岡山駅に正午過ぎに戻り、こうして一泊二日の温泉ツアーが幕を下ろしました。参加していただきました皆さまには、心より御礼申し上げます。

聞くところによると、組合によるこうした泊りがけのイベントは行われなくなって久しくなるとか。これを機に今後もこうした企画を積極的に行い、非組合員の方々も含め、幅広く皆さまをお待ち申し上げます。次回以降も、どうかよろしくお願ひ申し上げます。(比斯麦)

-----キ-----リ-----ト-----サ-----

【研究科長交渉における要求事項】

※4/30(火)までに、懇話室の梶谷委員長又は大竹書記長のBOXまでご投函ください。